

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇札幌市の共通指標から、「学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりするようにしている」児童や、「分からないことがあったときに、友達に聞くようにしている」児童の割合が85%程度であり、高いことが明らかになった。</p> <p>◇校内研究の視点である「他者との関わりを通して学ぶよさを感じられる教師の手立て」を重視して実践を積み重ねたことにより、協働的に学ぶ姿勢が育まれていることが共通指標から明らかになった。</p>
	<p>◇札幌市の共通指標から、「自分が思っていることや感じていることを人に伝えている。」児童や、「自分の意見を進んで発言しようとしている。」児童の割合が65～70%であり、低いことが明らかになった。</p> <p>◇共通指標から明らかになった成果と課題を踏まえると、友達と一緒に考えたり、分からないことを友達に聞いたりすることには肯定的な児童が多いが、自分の考えを伝えることには苦手意識をもっている子が多いようだ。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p> <p>◇札幌市の共通指標の「自分が大切にされていると感じる」等の相互承認に関連する項目において、肯定的な回答が多い。授業や行事におけるブロック学年での交流や、子ども同士による学校行事後の相互評価（お手紙など）を通じて、自己肯定感や自己有用感が高まっていると考えられる。引き続き、「他者からの承認」を得られる機会の確保が重要となる。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

課題解決への意欲をもち、自ら学びに向かう力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 研究主題「自ら学ぶ子を育む授業の創造」の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> →一人一人が課題解決への意欲を高められる教材化 →必要感のある対話場面の創出 →他者との関わりを通して学ぶよさを感じられる教師の手立て <p>(2) 指導と評価の一体化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> →資質・能力に視点を当てる教師の関わり →見通しをもって学ぶことによる自己調整 →子どもの学習改善・教師の授業改善のためのリフレクション 	<p>①よりよい学級にするための学級活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> →もっとクラスを楽しくする係活動の推進 <p>②自分たちの生活を振り返る場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> →毎月の「生活のめあて」を自己評価することによる生活改善 <p>③よりよい学校にするためのクラブ・委員会活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> →実態に応じた取組の発案 →子どもたち自身で決定した活動の実現 →活動ごとのリフレクション
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について</p> <p>◇一人一人が自分の考えを表現する場の創出，他者参照による個別最適な学び，即時共有による交流（オクリンクプラス，スプレッドシート等）</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

